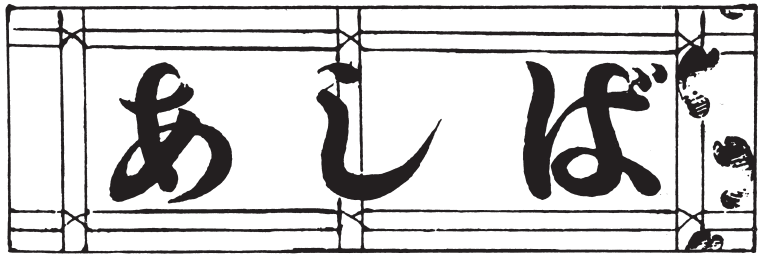


組合の閉所日 ご迷惑おかけします  
8月22日(金) 小金井平和盆踊り  
9月1日(月) 書記局会議  
支部ホームページ  
群会議の話題・あしば・すずらの閲覧  
ユーザ名→何も入力せず(空白)  
パスワードは、発行所(右)下を参照



第549号

発行所  
東京土建一般労働組合  
小金井国分寺支部  
国分寺市東恋ヶ窪 2-36-32  
電話 042-324-5940  
発行責任者  
中川和美  
パスワード doken5940

# 私の現場に平和のバラ

## 杉並区立高井戸中学校に咲きほこる

### ～先生、生徒、地域住民の努力で～



『アンネの形見のバラ』四季様々に変化する



古谷さん

### 我が家にもバラ植え替えたい

#### アンネ・フランクの想いつないで

【国③分会・古谷 文夫】  
私は以前、鉄鋼業の仕事をしていましたが、2年前

に辞めて建設会社で働き始めました。入社早々、杉並区立高井戸中学校に夏休み中の工事で現場監督として出向きました。校内に入ると両サイドに花壇があり、バラが植えられています。このバラは、「アンネの日

記」の主人公、アンネ・フランクを偲んで品種改良されたアンネの形見のバラが、アンネの父オットーから1976年に贈られ、以来、約50年間、先生、生徒、地域住民のみなさんの努力でいまでも美しい花を咲かせています。

## 想像力の欠如にガク然

【書記・碓谷 栄治】  
東京大空襲・戦災資料センターの展示資料で強く印象に残ったのは、焼夷弾(しょういだん)の模型と米軍の撮影映像でした。米軍上層部は、人道的観点などから焼夷弾による攻撃を躊躇(ちゅうち)していました。

しかし、当時の指揮官カーチス・ルメイ少将は、国民一体となった戦争参加、家庭内での兵器製造を理由に焼夷弾使用を主張し、日本国民の戦意喪失を狙って、絨毯(じゅうたん)無差別攻撃に踏み切りました。

私は、戦時中とは言え、決定的に想像力が欠如していると感じました。そこに暮らす人も物も、思い出すだけでも燃やし尽くす攻撃に、命への畏敬の念も何もないのだという事です。

次に二瓶治代さんの東京大空襲体験を聞き、非道な当時の状況に胸がつまりそうでした。24歳の一般参加者から「今の状況が過去と似ていて不安とはどういう事か」との質問に、「1944年7月にサイパンの日本軍が陥落し、その年の11月に中島飛行機武蔵製作所(武蔵野市)に初の空襲があったが、多摩地域だったのと、新聞・ラジオは『勝っている』の報道しかないので、住民に何の危機感もなかった。ところが1945年1月になって銀座に空襲があり、住民は口々に『おかしいと言っていた。そうして3月10日を迎えた』と話し、日本の防衛費がどんどん増えている中で、新聞やテレビなどで本当のことが伝えられているか、国民に伝わっているかという不安。世界各地の戦争・紛争を、みなさんが身近と感じているか、対岸の火事と思っていないか不安とのことでした。戦争は突然始まるわけではなく、周到に準備されるものとも言っていました。

言論統制のしかれた昔と違い、真実を知る術もあり、おかしいことをおかしいと言える時代なので、平和を守って欲しいとの想いも語っていました。

戦後80年 『平和共同取材』 東京大空襲の歴史 風化させないために



江東区役所前「母子像」

## 都合悪いことに蓋の権力

### 戦後100年でも戦跡残そう――

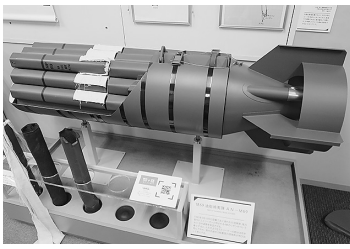
【東小分会・朝倉 法明】  
東京大空襲は1945年3月10日、0時過ぎから始まった焼夷弾による焼き討ち作戦。たった2時間半で10万人の一般人を焼き殺した歴史的犯罪です。午前中ガイドさんの説明に耳を傾

次に、江東区役所に母子像が立っています。この像は平和の恒久を願ったものです。作者は高校の美術担当の先生です。この像、当初は猿江恩賜公園の予定でした。こは、当時1万3千人が仮埋葬された公園です。母子像はここに建てる計画でした。しかしこでも恩賜の名が圧力となり、場所を区役所へ変更。この

秘話は大変印象的でした。こやって権力は都合の悪い事に蓋をしていく。戦後80年のいま100年たったに残っているのか。いや残さねばなりません。



今回、平和の希求と哀悼の戦跡を各支部通信員の方々と歩き、東京大空襲の認識を深めることが出来ました、取り組みに参加して良かったです。

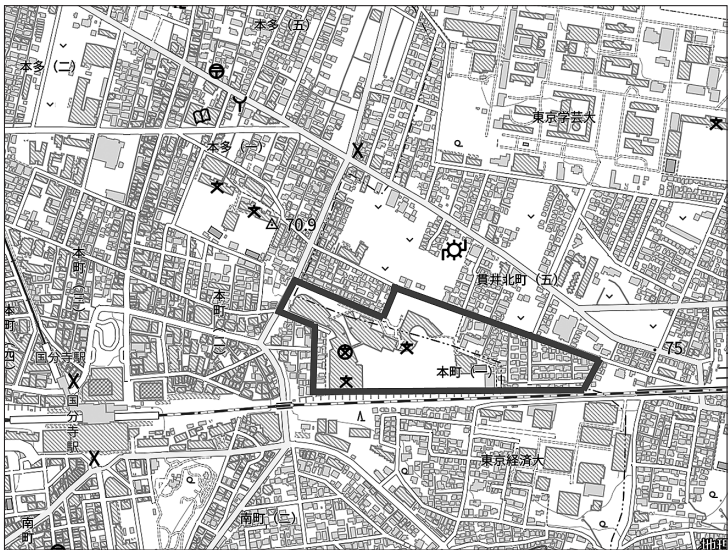


ナバームで燃やし尽くす焼夷弾

東京大空襲の中、家族5人で火の延びから逃げた二瓶治代さん(当時8歳)と妹光子さん(当時5歳)は左足に大きな火傷を負った

▼米軍は原爆投下の訓練ならびにデータ収集のために開発されたパンフキン爆弾を、1945年7～8月、日本各地に49発を投下。国内で1600人以上の死傷者が出た。模擬爆弾は本物の原爆と同型、同重量(4・5トン)で高性能爆薬が詰められており、表面の塗装が黄色なのでパンフキン(カボチャ)と呼ばれる▼昭和20年7月29日、午前10時30分頃、警戒警報発令と殆ど同時に、北方よりB29爆撃機一機侵入。西武柳沢駅南方約1キロの地点、中島飛行機武蔵製作所を狙って大型爆弾を投下。目標を外れて着弾。強力な爆風。地表にはクレターが生じ、死傷者十数名を出した。この時、爆弾を落としたB29爆撃機は、8月9日に長崎に原爆を投下することになる▼戦後80年にあたる今年、過去のことを知ること現代の問題が見えてくるのではないだろうか▼そんな中、国の被爆者調査打ち切りという記事が上がった。被爆者の高齢化などを理由に打ち切りを決めたそうだが、80年経っても核をめぐって混沌とする国際情勢に対する被爆者の今の思いを、自由記述欄で知る意義は大きな意味を持つであろう▼この国の憲法9条を知っているかい。戦争はしない。戦争に加担しない。愛と平和なんだ。まるでジョンレノンの歌みたいじゃないか。「三野清志郎」

朝顔



当初、攻撃目標となった「中央工業南部工場」跡 出典：国土地理院

**国分寺にもあった 焼夷弾空襲**

国分寺町（当時）最大の軍需工場は、『中央工業南部工場』でした。ここでは、将校用ピストルや機関銃といった、戦争用の武器が製造されていました。工場は、現在の早稲田実業学校の場所にあり、また、東京経済大学のある場所には、工場で働く人々の宿舍や食堂があって、最大で6千人以上が働いていたと言われています。

戦争末期には町内の国民学校の生徒も動員されました。

1944年当時、この工場もアメリカの攻撃目標リストにありましたが、横河電機小金井工場と取り違えてリストに記されたため、直接の攻撃目標にはなりませんでしたが、その後、1945年5月25・26日に本多地区に空襲があり、焼夷弾（しょういだん）によって焼失家屋11戸、2名の犠牲者がありました。



猛暑の中歩き通した参加者 小平原水協へ引き継いだ



初参加の利根川さんご夫婦

7月21日（月・祝）、国分寺市役所平和の碑広場前に、団体から参加。支部からは、18人が参加し炎天下の中行進しました。今年

# 核廃絶の熱い想いたずさ大行進

## 支部から18人初参加の仲間も

を携えて若者男女、様々な団体から参加。支部からは、18人が参加し炎天下の中行進しました。今年

核兵器が存在し、紛争や戦争が続いています。



支部4役のみなさんも行進

国立原水協から引き継いだ平和行進は、国分寺市役所を出発し、本多公民館で1度目の休憩。公民館からの参加者も合流し、小金井市役所で2度目の休憩。その後、小金井公園まで約6キロの道のり。参加者の

そのような情勢の中で、昨年12月に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞し、世界中から賞賛の声が上がっています。

中には5月6日に北海道の礼文島を出発した通し行進者の愛知県出身・三浦コト子さん（70歳）や90代の方、介助者同行の盲目で杖をついた方、学生平和ゼミナールの大学4年生、田原ちひろさんなど、平和を希求するみなさんが力強く歩を進めました。

**ちびっこ大集合!! 小金井平和盆踊り**  
8月22日(金) 午後5時半～  
23日(土) 午後5時～  
小金井市営グラウンド (小金井市桜町2-2-31)  
東京土建は、ダーツや輪投げ、射的、唐揚げなどを出店します。ぜひ遊びに来てね。

## 長楽の会 6年ぶり男の料理教室



寸胴でカレーを作る長楽の会会長の篠崎弘さん（国①）と白和えを作る副会長の鈴木吉郎さん（小①）と地域は違うが、共に畳業で、料理の連携もバッチリです



力作のカレーライスと白和え

【長楽の会会長・篠崎 弘】  
7月18日(金)午前11時より、組合事務所の一階で、長楽の会は6年ぶりの『男の料理教室』を9人の参加で行ないました。

メニューは、カレーライス、スプロッコリーの白和え、もやしの醤油炒めの3品。メインシエフは、鈴木吉郎さん（小①）と私、篠崎（国①）の畳業コンビで務めました。ニンジン、ジャガイモ、玉ねぎ、豚肉は、武居さん（小①）に炒めてもらい、一気に寸胴へ。白和えは、ボウルで鈴木さんが「美味しくなれ」と丁寧

に和えて作りました。ここだけの話、ハムを入れ忘れたそうです。もやし炒めも鈴木さん作です。

カレーは隠し味にお酒とにんにくを入れて煮込み完成。盛り付け、配膳は、参加者で協力して行いました。談笑しながらテーブルに並べ、出来た料理を前に記念撮影。私の乾杯の音頭で試食会に入りました。カレーは味が少し薄かったかも。もう少し辛い方が良かったかもしれません。参加者からは、白和えがとても美味しかったと感想がありました。余ったカレーはみんな持ち帰りました。久しぶりにみんなで作った料理は格別で、とても楽しい1日となりました。



動画受講でもみな集中

2025年度、学習制度委員会の方針の目玉の一つである労働学校（ワークスクール）を、7月24日から開校し、受講者は、今年度は執行委員以上の役員を対象とし、年度内に6講までの修了をめざしています。

第1講は『憲法と労働運動』で、代々木総合法律事務所

の林弁護士を講師に、憲法と一般法の違いや、憲法を実現させるために不断の運動が必要であることなどを学びました。

受講者からは「国民が国家を縛るのが憲法、対して国家が国民を縛るのが法律という理解ができた」と「日常生活で憲法を感じる瞬間がない」という率直な感想もありました。

## 川添さんの経験に学ぶ 熱中症の危険性

### — 楽しく有意義な会議 —

【前原分会・南 哲司】  
川添美さんの講演がメインの後継者対策部会に参加しました。

6月に支部会館で行われた熱中症予防教育講習を受けて、川添青年部長が報告しました。キッカケは自らの辛い経験がありました。

昨年の夏、大工職人の川添さんは、暑い中ペランダ増築工事をしました。1週間後に入る防水業者のスケ

ジュールに合わせるため、無理を重ねました。その後、度重なる吐き気に襲われダウンしたそうです。熱中症でした。この経験から、今回の講師の役を引き受けました。

話を伺いながら、やはり実際に経験された方の話は説得力があり、参加の皆さんの発言も活発に行われ、とても楽しく有意義な会議でした。